



三十石夢の通ひ路

笑福亭 松 鶴

一席伺ひますは少々お長いお噂で御座ります。

「オイ、早うおいで、それは三條の大橋や」

「フム、立派な橋やな」

「大阪は何程威張つてもあかん、大阪には橋が無い」

「そんな事が有るかいな、大阪は水の都と云ふて、八百八橋有ると云ふがな」

「大阪の何處に橋が有る」

「天神橋、天満橋、難波橋」

「お前、それは橋や無いばしやがな」

「ア、そうか」

「京は、二條大橋、三條大橋、四條大橋、五條大橋、七條大橋と皆橋が附くがな」

「ほんにそうやなア」

「別て三條の大橋は往昔豊臣太閤さんがお架けになつたんや、此の橋には餘程縁由がある。此の橋の長さが六十三間、巾が四間と五寸、然うして擬寶珠の数が十八本、此の擬寶珠は皆大名方が進上た物や、夫れで此所に委しう書いたある」

「フム、何と書いたるねん」

「洛陽三條之橋、至後代化度往還人、盤石之礎入地五尋、切石之柱六十三本、蓋於日域石柱橋濫觴乎、天正十六年庚寅正月日、増田右衛門尉長盛造之、と書いて有るねん」

「ム、然うすると太閤さんが此の増田長盛といふ仁に造らしたのか」

「然うや、之が三條通りや、是を西へ行くと愛宕山へ行く、是がたら〜や」

「甚い賑やかな所やなア」

「此所が京極と云ふて大阪の千日前みたいな所や、此所が錦魚亭と云ふてぜんざい屋や、阪井座の首振り芝居、此の角が小田巻屋、それは誓願寺さんや」